

今週（10月19日から10月23日）の短期金融市場動向

●無担保コール市場

今週の無担保コールO/N物は、引き続き資金調達ニーズが堅調で、出会いの水準は1.22%台で推移した。加重平均レートは、1.227~1.228%で推移しており、23日(金)も概ね同水準での取引が中心となった。

ターム物は、ショートターム物を中心に1.3~1.4%程度と、横ばい圏での出会いが見られた。

日銀当座預金残高は、週初417兆円程度でスタートし、その後も概ね横ばいで推移した。23日(金)は、418兆円程度での着地が見込まれる。

●債券レボ市場

今週の債券レボ市場GC T/N物の出会い水準は、1.255%で推移した。参加者のしっかりとしたoffer姿勢が見られ、週を通して高めのレートで安定して推移した。

SC取引の個別銘柄では、2Y470~488回、5Y170~188回、10Y360~383回、20Y180~197回、30Y70~91回、40Y13~18回などで引合いが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、全ゾーン軟調に推移した。

23日に実施された3M物入札では、事前予想対比で強い結果となり、セカンダリーでは堅調に推移した。

●CP市場

今週のCP市場は、電気・ガス業、小売業、卸売業など複数の業態が大型発行を実施した。

市場発行残高は週を通して24兆円台で推移した。

発行レートは引き続き1.25%以上で推移し、銘柄や投資家の運用目線にばらつきがみられた。

●短期金融市場関連指標

	日経平均株価 (円)	新発10年国債 利回り (%)	為替 (ドル/円 中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レボレート (T+1 ON・%)	日銀当座預金残高 (億円)
10/19 (月)	64,916.70	2.904	157.91	1.227	1.250	4,173,400
10/20 (火)	64,075.42	2.895	158.58	1.228	1.250	4,184,000
10/21 (水)	64,621.24	2.890	158.38	1.227	1.250	4,170,800
10/22 (木)	62,907.84	2.880	158.21	1.227	1.250	4,181,200
10/23 (金)	62,693.16	2.795	156.45	1.227	1.250	4,183,000

翌週（10月26日から10月30日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー （※米国については、政府機関閉鎖の影響に留意する必要がある。）

	国内主要経済指標	国債等入札予定	海外主要経済指標
10/26 (月)			
10/27 (火)	*9月の消費者物価のコア指標(日銀 14:00) *9月の企業向けサービス(日銀 8:50)	流動性供給 10/28発行 2,500億円	*米FOMC(1日目) *9月の米新築住宅販売件数
10/28 (水)		交付税借入 11/12借入 12,000億円	*米FOMC(2日目)
10/29 (木)	*日銀金融政策決定会合(1日目)	TDB3M物 2Y物 11/2発行 11/2発行 33,000億円 28,000億円	*7-9月期の米実質GDP速報値 *9月の米個人消費支出(PCEデフレーター) *ECB定例理事会
10/30 (金)	*日銀金融政策決定会合(2日目) *経済・物価情勢の展望(展望レポート) *10月の都区部消費者物価指数(CPI 総務省 8:30) *9月の労働力調査(完全失業率 総務省 8:30) *9月の有効求人倍率(厚労省 8:30) *9月の鉱工業生産速報(経済産業省 8:50)		*7-9月期のユーロ圏GDP速報値 *7-9月期の米雇用コスト指数

●資金需給予想

単位：億円			資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
10/26 (月)	▲ 200	1,900	1,700	国債補完供給	200		200	1,900	TB3M発行▲33,000 償還38,000
日銀予想									
10/27 (火)	0	▲ 1,000	▲ 1,000				0	▲ 1,000	
弊社予想									
10/28 (水)	100	▲ 4,000	▲ 3,900	全店共通(変)	▲ 8,000		▲ 8,000	▲ 11,900	流動性供給発行▲2,500
弊社予想									
10/29 (木)	▲ 500	▲ 2,000	▲ 2,500				0	▲ 2,500	
弊社予想									
10/30 (金)	▲ 800	▲ 6,200	▲ 7,000				0	▲ 7,000	
弊社予想									

●短期金融市場の見通し

無担保コールON物は、引き続き資金調達ニーズが堅調で、1.225～1.228%程度での出会いが予想される。ターム物については、ショートターム物を中心に横ばい圏での出会いが継続する見通し。債券レポ市場は、引き続きGC T/N物のレートは1.25～1.255%程度の水準で推移することが見込まれる。短国市場は、29日(木)に3M物の入札が予定されている。CP市場は、29～30日に日銀金融政策決定会合が予定されており、その結果を受けて今後のレート水準や発行・投資家動向が注目される。

来週の主要なイベントとして、国内では29-30日に日銀金融政策決定会合、27日(火)に9月の消費者物価のコア指標、9月の企業向けサービス、30日(金)に展望レポート、10月の都区部消費者物価指数、9月の完全失業率・有効求人倍率、9月の鉱工業生産速報などが公表予定である。海外では27-28日にFOMC、27日(火)に9月の米新築住宅販売件数、29日(木)に7-9月期の米実質GDP速報値、9月の米個人消費支出(PCEデフレーター)、ECB定例理事会、30日(金)に7-9月期のユーロ圏GDP速報値、7-9月期の米雇用コスト指数などが公表予定である。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何かの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入